

「乳幼児ケアヘルパー研修講座」受講の皆さんの声

2019年度に受講された皆さんのご感想の一部をご紹介します。

■第1回：子どもの心の発達と大人のかかわり

- 幼少期のころから、女の子文化、男の子文化があることを知り、そういったことを頭の片隅に置きながら保育に関わっていくことの大切さを知りました。一人一人の特性を知り、それに合わせた関わりを見出し、常に工夫していくことが大事だと思いました。【20代 保育士】
- 結果ばかりにこだわった教育をしていないか、あらためて考え直す機会になりました。子どもたちを肯定する言葉かけをし、もっと子どもたちに自信を持たせたいと思います。【40代 保育士】
- 今までコミュニケーションができない子どもは、コミュニケーション能力が低いと思ってしまっていたのですが、今回の研修でコミュニケーションできる手がかりをつくるという手法を知りました。食べ物にも組み合わせがあるように、人にはもっと相性があるという講義に、組合せが悪ければ、阻害しているものを取り除いたり、保育担当を代えたりすることの有効性を学びました。【30代 保育士】

■第2回：リスニング ～ 対人援助の基本となる聞き方～

- 自分の背後にシャドーの存在を置き、それを意識しながら話すことで、客観性が増し、伝える力がアップすることがわかりました。この手法は保育現場以外でも有効なので、常に意識できるよう訓練していきたいです。【30代 保育士】
- 対人援助の基本となる聞き方の中で、「人数を合わせる(1対1、2対2など)。場所と時間を決める。お題は一つに絞る。次の約束を決めるようにする。話しを長引かせないように話すことを簡潔にまとめ、主題からそれてきた場合は仕切り直しをする」ということがとても大切な事だとわかりました。すぐに相手の話に割って入っていきたくないので気をつけたいです。【40代 幼稚園教諭】

■第3回：育ちが気になる子どもの理解とその家族の支援

- 発達過程を考慮して、頭ごなしに否定することなく、静かに寄り添い、子どもが安心して過ごせる環境を常に考えなければならないことを学びました。内的ワーキングモデルを教育現場から保護者へも伝えられるよう、私自身も気になる子どもには「5回のギュッと抱っこ。ちょっと抱っこ」で信頼関係を築いていき、一つでも多くの子どもの笑顔が見られるように、本日の講義をいかしていきたいと思いました。【40代 保育士】
- 現場ではすぐ安易に発達障害の「ラベル付け」をしてしまいがちであることにはっと気づかされました。ただ症状名のラベルづけをして、その子を型にいれてしまうのではなく、子どもの一人一人の「困り感」に気づき、どうフォローしたら良いのかということこそ注力すべきことであり、それぞれの子どもにとって安心安全な場の提供こそが園の役目だと思いました。【50代 施設長】

■第4回 子どもの食育～基礎知識と実践～

- 病児保育という現場は、アレルギー食に関して神経を使いながら食事を提供しています。今日の講義は、食べさせ方だけでなく、食品の表示の表記にも目を向けなければならないと認識を深めました。【40代 保育士】
- 栄養の基礎から、食育の進め方、食物アレルギーと対応法まで広くお話を聞けて良かったです。アナフィラキシーの実例や対応の話聞き、正直怖いと感じましたが、いつでも起こり得る事なので、知識を正しく持ち、対応できるようにしておかなければならないと感じました。【20代 幼稚園教諭】

■第5回 子育て・子育てへの援助～子どもの成長発達と親支援

- 子どもの成長、発達について様々な状況を詳しくお話しいただきましたが、子育て、子育ての援助の最大のかなめは、保護者や支援者(保育士等も含む)がどのような環境を子どもに与えられるかということが重要だと実感することが出来ました。そのためにも保護者支援の大切さを理解することができました。【40代 保育士】
- 保護者同士のグループワークの実践例や注意点をいくつか紹介していただいたので、今度園の方でもやってみたいと思います。【30代 保育士】

■第6回 自分らしさを育む保育環境～はまようちえんの実践から～

- 色々な保育園の内部でどんな工夫をしているかということをとくさん聞くことが出来たのでとても良かったです。このような参加型学習ができる研修講座があればもっと良いと思います。【60代 保育補助】
- 子どもだけでなく、保育者も「自分らしく」が大切であること。子どもに指示をだし、行動を進めていきましたが、「考える練習」をさせることがどれだけ重要なかを学びました。【50代 保育士】